

# 鉄鋼ビルディング

所在地：千代田区丸の内 1-8-2

登録者：株式会社鉄鋼ビルディング

江戸のみどり登録緑地

<優良緑地>

(2025年3月登録)

◆完成年月 2015年10月 ◆敷地面積 7,400㎡ ◆緑地の面積 966㎡ (うち樹木面積 966㎡)

◆URL: <https://www.tbg.co.jp>

鉄鋼ビルディングは、「人・街・時をつなぐ」をコンセプトとした大規模複合ビルです。東京駅に近接した立地から、国内外の多くの人や企業をつなぐ場となり、丸の内と八重洲・大手町の地域をつなぐ拠点として機能しています。

ビルが所在する場所は、江戸時代以前には隅田川と日比谷入江に挟まれた「江戸前島」と呼ばれる半島で、徳川家康の江戸入府以降、埋め立てが進み現在の地形となりました。

この歴史を踏まえ、鉄鋼ビルディングでは、開発による生態系への影響を配慮するとともに、かつての自然林に近い状態の「皇居」の植生と国の天然記念物及び史跡に指定される「国立科学博物館附属自然教育園」の武蔵野の植生を参考にこの一帯に生息していた在来種の植栽による自然植生の再現に取り組みました。

永代通りに面すビル北側には常緑樹のクスノキを、外堀通りに面す東側には同じく常緑樹のタブノキを列植しています。ビル西側の緑地帯は永代通りと外堀通りを緩やかにつなぐ約170mの散策路となっており、ヤブラン、ツツブキなどの地被類、ニシキギ、アオキなどの低木、イロハモミジ、エゴノキ、ヤマボウシなどの落葉小高木、

スダジイ、シラカシ、ソヨゴなどの常緑高木と多彩な緑が配置され、ビル南側の緑地と2階・3階の飲食店舗のテラスエリアをあわせて約1,000㎡の緑地を創出しています。

かつてこの地に生息していた木々の再現と保全の推進、地域に生息する生物へ配慮した植栽計画とすることにより、訪れる人々に癒しと安らぎを提供しています。



鉄鋼ビルディング (外堀通りから撮影)



## 在来種植栽情報

### ○面積割合

高木	59%
中木及び低木	35%

### ○在来種の種数

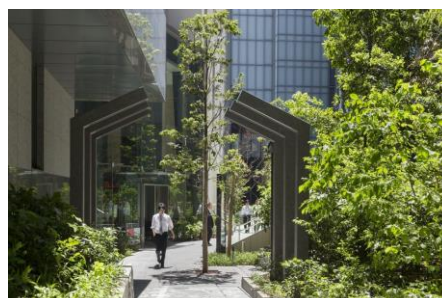
高木	9種
中木及び低木	5種

### ○おもな樹種

シラカシ、スダジイ、タブノキ、エゴノキ、ヒサカキ、イヌツゲ、ヤマブキ、ニシキギ



ビル北側のクスノキ (永代通りから撮影)



在来種に囲まれたビル西側の散策路